

東部・南部の本格攻勢を経て、ロシアはキーウ制圧に戻ってくる

New Russian Offensives?

2022年4月4日（月）18時30分

デービッド・ブレナン

45

0



南東部の港湾都市マリウポリ付近を走る親ロシア派の装甲車隊 ALEXANDER ERMOCHENKO-REUTERS

<キーウからの部分的撤退は勝利宣言するための準備にすぎない。中国とインドが肩を持つかぎり、ロシア軍はいずれ再び首都を目指してやってくる>

去る3月29日、ロシア軍はウクライナの首都キーウ（キエフ）とその北東にある都市チェルニヒウからの部分的「撤退」を表明したが、だまされてはいけない。それは和平交渉の材料どころか、東部と南部で攻勢を一段と強める準備にすぎないと、ウクライナ側はみている。

ロシアのアレクサンデル・フォミン国防次官は「相互の信頼を高め、さらなる交渉に向けて条件を整える」ために軍事活動を大幅に縮小すると述べたが、ウクライナを支援する西側陣営の誰も、そんな話は信じていない。

「自主的な撤退ではなく、わが軍に撃破されただけのこと」だと、ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領は述べた。「それでロシア軍は今、（東部の）ドンバスへ総攻撃をかけるために部隊を再配置している。むろん、こちらも備えはできている」

ロシア軍は、今回の「特別軍事作戦」の「第1段階」は首尾よく完了したと総括している。だが西側から見ると、ロシア軍は主要な戦略目標を達成する能力を欠き、膨大な数の死傷者を出し、兵器などの物資も大量に失っている。

それでもロシアは「どうしても何らかの成果を必要としている」と本誌に語ったのは、元ウクライナ国防相のアンドレイ・ザゴロドニクだ。

ロシア側は、この戦争の「第2段階」で東部ドンバス地方の「解放」を目指すとしている。かつてウクライナ海軍で副参謀長を務めたアンドレイ・リジェンコのみるところ、ロシア側の真意は「前線の部隊を再編した上で、東部のドンバス地方を総攻撃する」ことにある。

東部のドネツク州とルハンスク（ルガンスク）州を合わせたのがドンバス地方で、当地の親ロシア派はその全域をロシアの庇護下で「人民共和国」にすると主張している。ロシア大統領のウラジーミル・プーチンにとっても、それが停戦の最低条件だろう。

かつてウクライナの国家安全保障・国防会議のメンバーだったアレクサンドル・ハーラも、ドンバス地方の制圧がロシアの最優先事項だと考え、特にハレキウ（ハリコフ）の南北に位置するイジウムとスーミの2都市の攻防が「カギを握る」と語る。

この2都市を落として、ドンバスにいるウクライナ軍の精鋭部隊を南北から包囲し、全滅させる。それができれば、プーチンは今後の和平交渉で強い立場に立てるわけだ。

南部ではロシアが優勢

「イジウムを制圧されたら、ドンバス地方にいるウクライナ軍は補給路を断たれる」とハーラは指摘する。「あそこでウクライナ軍を包囲し、無力化できれば、プーチンはドネツク州とルハンスク州を『取り戻した』と宣言できるだろう。それをロシア軍の勝利と言いふらせば、和平を受け入れる下地もできる。それに、運がよければプーチンはウクライナから、海への出口を奪うこともできる」

次のページ 海岸線を全て手に入れたい

1

2

3

次のページ

東部・南部の本格攻勢を経て、ロシアはキーウ制圧に戻ってくる

New Russian Offensives?

2022年4月4日（月）18時30分

デービッド・ブレナン

45

0

黒海やアゾフ海に面した港を奪われたら、ウクライナは石油の輸入にも国産小麦の輸出にも困る。既にロシア軍は東部ベルジャンスクと南部ヘルソンの港を制圧している。

さらに南部では、クリミア半島から東進した部隊がその他の前線地域より大きな戦果を上げている。これで壊滅寸前のマリウポリを落とせば、クリミア半島からロシア本土までが陸路でつながる。

しかしまだ南西部にある国内最大の港湾都市オデーサ（オデッサ）は陥落していない。オデーサの手前にあるニコライウの町もロシア軍の手に落ちていない。

侵攻からの約1カ月で、ロシア軍が最も戦果を上げたのは南部戦線だ。しかしウクライナを縦断するドニプロ（ドニエプル）川を越えては進軍できていない。しかも最近はウクライナ側が反撃し、領土の一部を取り戻している。

前出のリジェンコは、今後のロシア軍は南部戦線に注力するだろうとみる。「とにかくロシア側は南部の支配権を確立したい。そうすればクリミア半島とロシア本土を陸路でつなげるからだ」

ハースも同じ見方で、プーチン政権は今も黒海に面した海岸線の全てを手に入れるつもりだと言う。

元ウクライナ国防相のザゴロドニユクによれば、今のロシア軍は苦戦続きで疲弊しており、休息を必要としている。「ロシア軍はひどい損失を被った。兵士の士気も著しく低下している。だから休息と物資の補給が必要だ。しかし、それが済めば彼らは必要な場所に戻ってくる」

そうであれば、首都キーウもまだ安心できない。ハースによれば、「私の知る限り、ロシア軍は首都の北西と北東からは撤収したが、北には残っているようだ」。

キーウは北のベラルーシ国境から80キロほどしか離れていない。だからロシアは北からキーウに圧力をかけ続け、和平交渉の場で優位に立とうと考えている。リジェンコも、ひとたびロシアが東部ドンバス地方と南の沿岸部を制圧すれば、次は再び首都に攻勢をかけるだろうと警告する。占領はできなくても、交渉の材料にはできるからだ。

頼みの綱は中国とインド

今回の侵攻でロシアは深い痛手を負った。ウクライナ側の発表では、既にロシアは1万7500人以上の兵士を失っている。米国防総省の推定でも、ロシア軍の死者は7000から1万5000人の間とされる（もちろんロシア側の発表する数字はもっと少ない）。しかも周辺諸国の反ロシア感情は高まる一方で、ウクライナだけでなく、ジョージアやモルドバもEUへの加盟を申請している。

次のページ 「ソ連2.0」の夢

[前のページ](#)

[1](#)

[2](#)

[3](#)

[次のページ](#)

東部・南部の本格攻勢を経て、ロシアはキーウ制圧に戻ってくる

New Russian Offensives?

2022年4月4日（月）18時30分

デービッド・ブレナン

45

0



キーウ郊外のイルピンで、破壊されたロシア軍戦車を調査するウクライナ側の兵士 DANIEL BEREHULAK-THE NEW YORK TIMES-REDUX/AFLO

西側陣営はロシアに重い経済制裁を科し、追加の制裁も検討している。ロシアの国際的孤立は深まるばかり——なのだが、中国とインドはまだロシアの肩を持っている。

この両国の「支持」がある限り、プーチンは今回の計算違いの軍事侵攻をやめないだろう。ハーラは言う。「これくらいの損害は想定範囲内と彼自身が信じれば、そして中国とインドの支持があれば、プーチンはいずれ全力でキーウを攻略しに来る」

だからこそ、取材に応じたウクライナ政府の元高官たちは西側陣営に、プーチンへの圧力を弱めないでくれと訴える。「とにかく圧力をかけ、プーチンのロシアに金を儲けさせないでくれ」と言うのはリジェンコ。「金があれば、奴らは『ソビエト連邦2.0』の夢を追い続ける」

ハーラに言わせれば、軍隊の撤収なるものも、所詮は経済的な圧力を逃れるための方便だ。「ロシアが合意を守るのは、彼らの合意破りがひどく高くついた場合のみ。今はまだ、軍の一部撤収を（停戦に向けた）善意と見せ掛けたいだけだ」

「まだ外交の出る幕じゃない」ともハーラは言う。「ウクライナの交渉団が愚かな提案をしたのは間違いだ。……得るものが何もないのに妥協の姿勢を見せてはいけない」

ウクライナ大統領のゼレンスキーにとっては、抵抗と和平の困難な綱渡りが続く。

【関連記事】

なぜ「ウクライナは降伏すべき」と主張する日本人が出てくるのか

※画像をクリックするとアマゾンに飛びます



2022年4月12日号（4月5日発売）は「**BTSが愛される理由**」特集。グラミー賞に再びノミネートされたBTS。世界のARMYが愛する、その世界観と社会性を考える

[前のページ](#)

[1](#)

[2](#)

[3](#)